

乙女高原が好き！ 2503 号

例年にない猛暑の日々が続いた今夏でした。標高1700mの乙女高原も遮るもののない草原の日差しは厳しかったですが、日陰に入ると冷房の中のような涼しさです。そんな乙女高原では今年もたくさんのお花々が次々に咲き、昆虫たちもたくさん活動していました。花やチョウなどを見に、また涼を求めて多くの人々もやってきました。そして乙女高原の夏は終わり、今は一面のススキ原になっています。秋の花が咲き、昆虫たちは徐々に少なくなって、静かな高原になりつつあります。これから草紅葉や木々の紅葉が始まります。冬に向かう前の輝きも素敵な乙女高原に足を運んでみませんか。

新しい乙女高原案内人が誕生 !!!

●乙女高原案内人養成講座・最終日●

7月27日（日）

記事：植原 彰

今年度で6回目となる乙女高原案内人養成講座の最終日が7/27でした。

受講者と講師、スタッフ約30人。10:00にオリエンテーション開始。その後、2班に分かれ、A班は井上敬子さんを講師に草花の、B班は小松澤靖さんを講師に樹木の観察実習を行いました。ロッジに帰ってきて、受講者とスタッフが4チームに分かれ、それぞれのチームで「やってみたい活動・関心がある活動」「あればよいと思う活動・始めてみたい活動」という2つのテーマで話し合いをしました。全体で出て来た意見の分かち合いをしました。昼食後、午前の実習を交替して行いました。最後に修了証書授与と閉講式を行い、全課程を終了しました。

講師の皆さん、案内人養成のためにご尽力くださり、ありがとうございました。

スタッフの皆さん、養成講座の下支え、ご苦労様でした。また、ありがとうございました。

そして、16人の修了生の皆さん、今後の乙女高原案内人としてのご活躍を期待しています。



小松澤さんの「乙女高原の樹木」野外実習

草原を守る草刈りボランティアへのご参加を！

今年も乙女高原の草原には数百種類ものたくさんの花が咲きました。そして、その花や植物にはいろいろな種類のチョウやハチなど多くの昆虫たちを見ることもできました。さまざまな野鳥や野生動物もやってきます。生き物のつながり、生物多様性が乙女高原では見られます。このような貴重な乙女高原の草原を維持していくためには、草刈りが必要です。人の手で維持していかないと、この草原は森林になってしまうのです。

今年も例年のように11月23日（日/勤労感謝の日）に第25回乙女高原草刈りボランティアを行います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。（詳しくは同封のチラシをご覧ください）



草刈りをしながら、「カヤネズミ？の巣」を探しましょう。10年前の草刈りボランティアの日、ススキの根元に半円球形の巣が見つかり、カヤネズミの巣ではないかと話題になりました。その後、巣をほぐして中の糞をDNA分析してみたり、トラップ（わな）を仕掛けてみたり、そのわなに入るネズミを写すようセンサーカメラをセットしたりしていますが、いまだにカヤネズミがいるか・いないか決着がついていません。カヤネズミは草原をすみかとするとても小さなかawaiiいネズミです。もし、乙女高原にカヤネズミが生息していること

が証明できれば、日本最高標高となり、大発見です。ススキの茎にソフトボール大の球形の巣がぶらさがっていたり、ススキ株中央の地面に半球球形の巣があったら、ぜひ教えてください

小学生と乙女高原で観察

●笛川小4年生の案内●

7月7日（月）

記事：赤松樹也

早朝に玄関を出ると、目の前の丹沢山塊の稜線が霞むほどにガスっていて、厚い雲に、つい眉根をよせてしまいます。今日は七夕だと言うのに、今にも振り出しそうな中で、乙女高原へ向かいます。七夕の雨は織姫の彦星の涙と言われているので、もし雨が降るなら嬉し涙になるといいのだけれど。丹沢の山を廻り、静岡エリアに入ると雨がパラパラと降り出しましたが、見えない富士の裾野をかすめて山梨に入ると、雨も止んで灰雲の間に陽も射してきています。塩平を過ぎると、新緑もすっかり深い緑に、もこもこと茂っていて、まるで緑の海で、飛び込んだら泳げそう。

一か月振りの乙女高原は、朝露に濡れた草花が、陽の光を浴びてキラキラ輝いている。と言う訳にはいかずに、残念ながら曇天でした。それでも、下界では連日の真夏日が続いている中、ロッジ前の温度計は19℃。日陰だと肌寒いくらいで、割と活動しやすい気温です。高原の生物にはもう少し気温が高い方が、光合成も進んで良いかもしれないけど、乙女高原は、子供たちを迎える準備は出来ています。

笛川小学校の四年生23人がバスで到着します。はじめの会では、逆に皆に迎えられてるような、弾けるほどに元気な挨拶をしてくれました。

今回は、ブナ爺班、谷地坊主班、草原満喫班の三班に分かれ、自分は草原満喫班を担当しました。他の二班のメイン的な物に惹かれていた子もいたけれど、高原の中に入って行くと、「あった、あった」と、早速、前のめりです。小さなランタンのように揺れているヤマオダマキ、薄黄色の花弁が淡い灯りがともっているみたい。「これなんだっけ」と、それぞれがオリジナルに手を加えた乙女高原ハンドブックを開いて確認すると、各々にシールを貼る。事前学習で乙女高原にある花を勉強して、その中から自分が見たい花を選んでおいて、その花を見つけたらシールを貼っていく、という方法です。

スタンプラリーというか、オリエンテーリングの要素に入った画期的なハンドブックの活用方法に思えました。「これなに？」と、訊くばかりではなく、「これなんだろう？」と、観察して自ら調べるとというのが、自然に出来ていたと思いました。

レンゲツツジをお目当てにしていた子もいて、残念ながらレンゲツツジやスマイレの時期は過ぎていて見られなかったけれど、小さな釣鐘をぶら下げたアマドコロも見つけられました。アヤメもまだまだ沢山見られたし、花弁の話に興味を持つ生徒もいました。みんなでノアザミの花の下を触ってねばねばを確認するとき、強く触ってしまって「イタイ、イタイ」と、チクリとされてアザミの防衛勝ちの場面もありました。

花がメインの観察会でしたが、やっぱり昆虫も見たいです。キアゲハの幼虫も見つけられたし、シモツケにはマルハナバチがたくさん来ていて、やっぱりマルハナバチは人気でした。

葉っぱのゆりかごが沢山見つけられたのでオトシブミが見つけれられるかなと、皆で探していましたが、ドロハマキチョッキリがちょうど“葉巻き”をしているところを見る事が出来ました。1cmにも満たない小さな身体で大きな葉を器用に巻いて行くのをじっくり見守ります。下に向いた葉の先が上に向かって揺れると、静かに「がんばれ」と、思わず声に出したり。もっと見ていたいという子もいたけれど、残念ながら、ゆりかごの完成までは時間が足りませんでした。

途中で少し雨がパラっときたけれど、降り出すことはありませんでした。戻り道では、キンバイソウが、隠れている陽射しに変わるほどの、鮮やかな黄色でした。

草原満喫班は、それほど登る道はありませんが、約一時間半の行程で、中には歩き疲れている子もいました。最後まで元気にシールを貼りながら観察出来たのは、僕の慣れた案内も画期的な教材と、井上さんと臼田さんのお陰でした。案内人が三人態勢なのは良かったと思います。

参加した子供たちが、今日家に帰ってから、例えば夕飯の時にでも、乙女高原の話を家族にしたならば、良い観察会だったと思って良いのではないかなと。

子供たちの笑顔と、山梨の深い緑に癒されてデトックスできて、150キロ先の日常に戻ります。



7/9（水）笛川小3年生「乙女高原自然学習 2025」を児童 25 名、引率の先生 5 名と乙女高原案内人 6 名で実施しました。

9 時 20 分、子供たちや先生方が乗ったマイクロバスが乙女高原に到着。『始めの会』で代表世話人の角田さんから歓迎の挨拶、スタッフの自己紹介を行い、さっそく 3 つ班に分かれて自然学習開始。1 班は『ブナ爺班』で担当は角田さんと榎田。2 班は『谷地坊主班』で担当は加藤さんと植原さん。3 班は『草原満喫班』で担当は赤松さんと井上さん。学習のテーマは『乙女高原の昆虫』です。どのコースも沢山の虫たちに出会えました。

『ブナ爺班』は児童 8 名。入口入った処の大きな絵地図の前でこれから歩くコースを確認しました。ここから森のコースをヨモギ頭まで上ってそこからブナ爺さんの所に行き、草原のコースでロッジに戻ります。歩く距離が一番長い班です。

早速昆虫を探します。小さいハナムグリが葉っぱの上で交尾しているのを発見。虫の結婚式だ！と大喜びです。イタダリの茎の先が、枯葉のように垂れ下がっています。オトシブミの仕業です。森の中ではエゾハルゼミの鳴き声が賑やかです。コースロープの下に蟬の抜け殻を見つけました。アザミの花にヒョウ柄のチョウがとまっています。マルハナバチも花の上を動き回って蜜を吸っています。

色々な昆虫を観察しながら森のコースを上って富士見のベンチに到着。残念ながら富士山は見えません。給水休憩です。

一休みのあと少し上ってヨモギ頭。標高 1725m あって乙女高原で一番高い所です。少し下って「ブナ爺さん」に到着しました。写真を撮ってからヨモギ頭に戻ります。

ベンチで一休みしながら、昆虫クイズを行いました。「チョウは卵から生まれると青虫や毛虫で、それからチョウに変身します。それではバッタやカマキリは卵から生まれた時はどんな形でしょうか？」、子供たちは「卵から生まれた時から小さなバッタ、カマキリの形！」即答です。脱皮したカマキリの抜け殻を虫眼鏡で観察しました。ちゃんとカマキリの形をしています。

草原のコースのてっぺんからロッジを見ると養護の先生が手を振っています。

オオマルハナバチがノアザミの花の蜜を吸っています。良く観察できるように今回「新しい道具！」を準備しました。蓋つきで直径 7cm 位で深さ 5cm 程の小さいプラスチック容器です(百均で 10 個 120 円。植原注)。これをお子たちに渡して昆虫をつかまえて、じっくり観察して貰いました。マルハナバチだけでなく、遊歩道にいる小さなバッタもつかまえて観察しました。2 日前にイケマの葉っぱの裏にいたアサギマダラの幼虫は引っ越したのか見つけられませんでした。

黒い翅に白い筋が入って右に左にひらひら飛びムスジチョウが飛んできました。咲いている花にトンボも留まっています。ヨモギの茎に小さい黒い虫とアリが沢山くっついていました。アブラムシです。アリとアブラムシが仲良しの理由を考えて貰いました。

ロッジに戻り、ベンチに座って今日観察した昆虫をみんなで確認しました。虫メガネ付き容器で観察した背中模様が綺麗な虫を他の班に渡しました。昆虫は多くの種類があり図鑑を見ても名前の分からない昆虫が多いと改めて感じました。

11 時 20 分『終わりの会』を行い、角田代表世話人から「楽しかった？いっぱい昆虫を観察できた？」の問いかけに、子供たちから「楽しかった！いっぱい見た！」と元気よく返事がありました。8/2（土）に盛夏編の『マルハナバチ調べ隊』があります。「家族でまた来てください！」と結んで終了しました。



【草原満喫班】

記事：井上敬子

草原満喫班は草原の草花とマルハナバチというテーマだったので、今、乙女高原に咲いている花のワークシートを作り、マルハナバチが来たら、シールを貼れるように準備しておきました。草原満喫班のはじめの会で、事前学習の様子を聞くと、3 種類のマルハナバチはわかっているようでした。そこでワークシートと黒、赤、黄のシールを配って、今日することを確認して、草原に入りました。

8 月にはたくさんいたマルハナバチの姿がありません。どうしよう



なんと 9 人もの案内人が参加!!

と思いながら進むとヤマハギの花にミーちゃん（ミヤママルハナバチ）が。子どもたちは「どこどこ?」「かわいい〜」などの声。そしてワークシートのヤマハギの欄に黄色いシールを貼りました。ノハラアザミやタムラソウに来ているのも子どもたちが見つけて、また黄色いシールを貼りました。ここで花が似ているノハラアザミとタムラソウの違いをみてもらいました。「黄色ばかりだね。」と言っていたら、いました。トラマルハナバチ（トラちゃん）がアザミの花から花へと移動していきます。マルハナバチは同じ種類の花に行くことも確認できました。そして、ワークシートに赤いシールを貼りました。「オーちゃんいないね」という声があがると、ヤマハギの花にオオマルハナバチ（オーちゃん）が来てくれ、やっと黒いシールも貼れました。

マルハナバチを探しながら、マツムシソウにはアブばかり来ていること、シシウドは線香花火みたいに広がって表面がヘリポートみたいに平らなこと、ハンゴンソウの葉っぱは何に見えるか、タチフクロの実はどうそくみたいになってはじけるとくるとかわいい形になることなど、花の観察もしながら進みます。草原を歩いていると日差しが強く暑いので、木陰があるところでは給水タイムを取りました。後半には子どもたちが「オーちゃん」「トラちゃん」など大きな声で呼びかけたりしながら歩きました。

昨年9月のマルハナバチ調べ隊の時は、100頭以上のマルハナバチがいたので、シールが足りるか、ワークシートに貼りきれかなど心配していましたが、今年は暑さの影響か、とても少なくなっていて、ヤマハギにミヤマ6頭・オオ2頭、タムラソウにミヤマ4頭・トラ2頭、ノハラアザミにミヤマ2頭・トラ1頭、マルバダケブキにオオ1頭の合計18頭だけでした。「8月にはたくさんいたんだけど。」と話しながら、戻ってきました。

まとめの会で、ヤマハギ、タムラソウ、ノハラアザミばかりにマルハナバチが来ているのはなぜか聞いたら、紫色だからとの答え。確かにそうですね。それから花の形や向きに注目してもらい、マルハナバチが長いくちばし（舌）やじょうぶな足を持っていて、ぶらさがったり、もぐったりして、花の奥にある蜜を吸うことができることを写真などで見てもらいました。シシウドやオミナエシなど上を向いている花はアブやハエなどいろいろな虫が訪れるファミリーレストラン、ヤマハギやアザミなどはお客様限定レストランと、花と昆虫の関係にも注目してもらいました。

3種類のマルハナバチに出会えて、シールを貼りながら、楽しく観察会ができました。

【チョウ観察班】

記事：宇津貴史

何か小学生が夢中に観察できるもの一曇り空だった去年の7月、キアゲハの終齢幼虫を見つけて飲んだものだーを探した。しかし今年は、小さな2齢しか見つけれられない。手のひらにのせてその感触を共有できない。

青空だった。ミドリヒョウモンが4頭纏れてミズナラの奥に消えて行った。この瞬間をみんなで目撃できたとしても、地味だ。いや、小学生にとっては地味ということだ。翅のすれた交尾済みかどうかもわからないメスを、3頭のオスが囲んでとんでいる。おとなだったらきっと、想像で面白くできる話なのだけど。

そして小学生を迎え入れた。高原に入り、やはり目につくのはミドリヒョウモン。

チョウ班は女の子が多かった。みんな、「花に集まる華麗なチョウ」を夢見ていた。でもフィールドのチョウは慌ただしく、華麗に生きているものではない。纏れてとんでいくその姿は生の姿を丸出しで、決してきれいなものではない。

観てまわるのがミドリヒョウモンばかりじゃつまらないだろうなあと、メスの構造色について話してみるものの、題材として難しいだろうと、話し手の気持ちが乗らない。秋になり増えてきたウラナミシジミをせっかく見つけても、天気が良すぎて観察する前に飛び立ってしまう。

朝に探しておいたキアゲハの2齢幼虫について話していたときも、思ったとおり、小学生の熱がこもっていないのが感じられる。何か珍しい種を見つけないと...

「わたしね、学校を休んでる間に勝手にチョウ班にさせられたの。別にチョウが好きってわけじゃなかった。でもだんだん、チョウが好きになってきた」最初から不機嫌そうで、マスクをつけっぱなしだった女の子がマスクを外して発言した。

「班長をみんなから推薦されたけど、無理ですって断ったの」「それで、わたしは班長でいいよって言ったの。だからわたしが班長なの。もうミドリヒョウモンは覚えたよ。だってたくさんいるんだもん」

仲良しふたり組と内緒の話もした。そう、観察も大切だけど、小さな子たちとの会話も大切なのだ。みんなにとっては、珍しい種が必要なわけではない。このフィールドを一緒に歩くことが何よりも大切なのだ。

カラスアゲハがタムラソウを行き来していた。普通種ではあるけれど、あの大きさ、みんなにとってはそれだけで感動だった。

駐車場にキベリタテハがいた。ラッキーだよ、という、お母さんに自慢しよ！と笑顔になる子がいた。

集合場所に帰り、まだ早いからもう少し行きたい人！と募ると、4人が手を挙げた。正直、嬉しかった。歩いていると、アサギマダラがやってきた。キベリタテハだけじゃなくてアサギマダラも自慢しよ、とさっきの子がもっと笑顔になった。素敵な顔だった。集合時間、シラカバにエルタテハがいた。最後の最後、みんなで観察した。翅を閉じている姿はこれまた地味だったけれど。

初めて小学生の案内をしました。好奇心あふれる子どもたちの心には乙女高原はとてもいい場所だと改めて感じました。

私が担当したのはブナ爺班。ブナ爺さんのところに到着すると、その大きさにびっくりした様子でした。そしてその大きさを肌で確かめてもらうために、全員で手を繋いでブナ爺さんを囲みました。そこから一人、また一人と人数を減らし、幹の周囲は何人分になるかの実験をしました。「もうこれ以上減らせない！」となったのは5人でした。体全体をブナ爺さんにくっつけながら、必死に手を伸ばしている姿はとても微笑ましかったです。きっと彼らの記憶にも残るような体験だったと思います。



乙女高原「裏山」のブナじい

よもぎ頭から下るとお目当てのマルハナバチを見つけるために、草原のコースへ。私自身が最後に訪れた7月下旬の印象のままに、「きっとたくさん見れるよ！」なんて期待をさせておいて、実際に観察できたのは班全体で10頭にも満たない数。申し訳ない気持ちになりました。それでも子どもたちはミヤママルハナバチを目の前に興奮し、嬉しそうに観察していました。あらためて、乙女高原の尊さを感じる場面でした。

●笛川小3年生の案内●

9月9日（火）

記事：加藤由美

「おはようございます！」

朝からとても元気な子ども達の声に「今、目が覚めました」と私。「え?!寝てたの?」とスタッフ。

「そう!寝ながら(車で)来たの!1時間かけて!」とやっと子ども達と同じテンションになった私。

ワークシートに使うシールを配り、自分のワークシートと予備のシールを持って、青レンジャーの1班の子ども達と1番目に出発しました。

今年は暑さのせいか、天気が良くてもなかなかマルハナバチに会えず「今日は、マルハナバチに会えるかな?」という心配をよそに、もっぱらちょうちょに夢中な宇津さんジュニアのような班長さんを筆頭にマルハナバチを探しに鹿柵の中へ。

きれいに咲き誇っている花を「これ何?」と聞くので「調べてみて」と私。ワークシートを見ながら、確認。それでも不安な時は、後ろから一緒に来ている榎田さんに確認。



ハバヤマボクチにトラマルハナバチ

「わぁ!これ、何?」「イチゴの妖精」と子ども達。見るとそれは去年の子ども達(今年は4年生?)が「何?あのバフンウニみたいなの」と言った去年よりも小さなハバヤマボクチの蕾でした。

「これはまだ蕾、この花は変わった咲き方をして、トラちゃん(トラマルハナバチ)が、大好きな花なんだよ」「この前、トラちゃんがいっぱい来ていたよ」と私。先日、このハバヤマボクチの花に複数のトラちゃんがいっぱい蜜を吸っていて花粉団子もついていました。

途中、日陰で水分補給をしたり、涼んだりしたけれどとても暑く、「(長袖ジャージ)脱いでもいい?」と班長(?)男子。「うーん、いいけど…」と答えに困る私。「確かに半袖ジャージの上に長袖ジャージは暑いよね」と思いつつ、「脱いでもいい?」「うん、いいけど…」と押し問答。遂に暑さに耐えられなくなった男子は、「やっぱり脱ぐ!」と長袖ジャージを脱ぎ、続いて女子も「私も脱ぐ」と脱いでしまいました。暫くして追いついた先生が「〇〇君、脱いだの?〇〇ちゃんも?」「脱いでもいいけど、虫に刺されないように気をつけてね」と声をかけていました(注:学校の子どもたちを案内する際は、自然観察のことはともかく、子どもの服装や体調等については、引率の先生に対応してもらいましょう。植原)。

ログジに戻るとみんなで、どのマルハナバチがどんな花に来ていたかを確認して終了。思ったよりもたくさんのマルハナバチに会えてよかったです。

ミドリシジミに会いた～い

●チョウ観察会●

7月20日（日）

記事：植原 彰

第V期乙女高原案内人(昨年の養成講座受講者)の宇津貴史さんが講師となって乙女高原のチョウを観察する研修会を行いました。乙女高原でチョウをテーマにした観察会は、2008年の「アサギマダラのマーキング調査」以来です。お子さんも含めて17人の参加者でした。

似ているチョウがいろいろある中、宇津さんがポイントを絞って、自作の紙芝居を使いながら説明してくださいました。ヒョウモンチョウの仲間とセセリチョウの仲間です。その他にも、いろいろなチョウが観察できて、2時間があっという間でした。

植原が一番心に残ったのは、宇津さんが「虫取り網」をまったく使わなかったことです。「捕まえてみないと、翅の細かい模様が分からない → 種を特定できない → 種名が分からないと観察にならない → だから、捕って観察するんだ」という意見がある中、宇津さんは網を使わず、自然な状態のチョウを観察します。

「観察できればラッキーだし、できなくとも、次のチャンスを待てばいい」という観察態度がとてもいいと、私は思いました。捕ってしまうと、翅の模様は見えても、チョウの行動や生態は「見えなく」なってしまいます。私は、羽根の模様を見るより、「ありのままを見て、行動や生態を観察する」ほうが好きです。

とはいえ、「小さくて」「動きの速い」チョウを「大人数」で観察するのは至難の業です(だから、捕って見せたくるんですよ)。何か工夫できるといいなと思います。でも、反面、そもそも「小さくて」「動きの速い」チョウを「大人数」で見ることも自体が無理なんだから、「このままでいい」という自然体の「答え」も成り立つと思います。

後日談。宇津さんからミドリシジミたちが縄張りを張る行動の魅力を聞いて、いてもたってもいられなくなり、翌日、朝早い時刻に、アイノミドリシジミを見に、再び乙女高原に行きました。そしたら、芳賀さんも見に来て、しばらく一緒に眺めていました。確かにとてもきれいで、何度も見たくなる光景です。夜空に色とりどりの花火を見る感じに近いでしょうか。その次の日の朝、今度は井上さんと伊佐治さんが見に来たんだそうです。ちょうちょのファンが確実に増えているようです。



記事：伊佐治庸子

- ・木漏れ日の林道は見にくくて運転しづらいぞ
- ・メガネかけたり外したり、お花のガイドに双眼鏡出して、カメラにメモにと大忙しの観察会・一生懸命写真撮っていたらあっという間に置いてけぼり
- ・まずは3種のヒョウモンチョウ、覚えて乙女高原のチョウ博士。よし！ミドリヒョウモンだけはなんとか押さえたぞ
- ・セセリチョウ、ごめんなさい、蛾かと思ったよ。近づいても全然逃げない鈍い奴
- ・チョウだってクソ暑い場所好きじゃない。ロッジ裏、ヒョウモンチョウの避難場所
- ・黒翅裏のクジャクチョウ、開けば私ってスゴイのよ〜ゲイシャを名に持つ艶やかさ(クジャクチョウ東アジア亜種 “*Inachis io geisha*” の亜種名 “*geisha*” は芸者に由来する。植原注)。開け開け開けと念を送るも届かない
- ・優雅に舞うアサギマダラ、毒持ちだから誰も襲わぬか
- ・ちょっと見はヒョウモンチョウ、実はギザギザ翅のキタテハ
- ・「ちょっと Excuse me」とホオジロが鳴く
- ・ロングトーン王者のコエゾゼミ、ジーーーーー

【リベンジ再訪】

- ・やっと逢えたねアイノミドリシジミ。チラチラキラキラ しばし見惚れる。ターコイズ シアン エメラルドグリーン 次々出現 煌めく
- ・裏翅は黒だけど真っ黒じゃない 大島紬か 絹の着物 粋な洒落者 クジャクチョウ



今年もたくさんさんのマルハナバチに出会えたよ♡

●マルハナバチ調べ隊・初夏編●

6月29日(日)

記事：鈴木辰三

6月29日、今年最初の「マルハナバチ調べ隊(初夏編)」が行われました。この時期には珍しく青空に恵まれ、アカハラ・ホオジロ・カッコウ・ホトトギス・ヒガラのさえずりが賑やかです。集まった参加者はスタッフを含め総勢15名(内、小学生5名)。

いつも全体コーディネーターの植原さんが参加できず、今回はスタッフ全員のチームワークで進行します。角田代表のあいさつに始まり、三枝さんがパネルを使ってマルハナバチの種類や特徴を紹介します。次に恒例の紙芝居。初参加のかほちゃん・このみちゃんの小学生コンビがチャレンジしてくれました。続いて植田さん

が調査方法の説明を行い、いよいよ開始です。

午前はラインセンサス調査。決められたコースを1時間かけて歩き、花に訪れたマルハナバチをカウントする調査です。2班に分けて行い、先導は井上さんと鈴木が務めます。

歩き始めて間もなく、通称“みーちゃん”がアヤメの花に訪れました。そっと観察用カプセルに捕え、まずはじっくり身体検査。フィールドガイドの写真と見比べて特徴を覚え、脚の付け根の花粉団子もしっかり確認。花粉団子があるということは、巣の中で幼虫が元気に育っている証拠です。その後もトラとミヤマをしっかりと見分けながら、順調に午前の調査を終えました。

お昼の休憩にラトビア出身のトムさん・亜美ちゃん親子が、カエルの卵を見つけたと言って声をかけてきました。確かにイタドリの茎の根元に、カエルの卵のような泡の塊がついています。実はアワフキムシという小さな昆虫の分泌液です。さらにノアザミの苞の部分のベトベトを不思議がって触ったり、調査以外にも好奇心旺盛に乙女高原の自然を発見していました。

午後の調査は、待ち伏せ調査。これは好きな花を決めて、15分間その花を訪れるマルハナバチの種類と行動をカウントします。それぞれ思い思いの花を選んで2セット行いました。と言っても、今の季節の主演はアヤメ。調査のほとんどはアヤメの花になってしまいました。

こうして予定の調査がすべて完了し、井上さんから結果発表。

<ラインセンサス調査>

アヤメの花にトラ 10 頭、ミヤマ 4 頭 イタドリの葉にミヤマ 1 頭 合計 15 頭

<待ち伏せ調査（1時間あたりに換算）>

アヤメの花にトラ 12 頭、ミヤマ 3 頭 調査中マルハナバチが1頭も訪れなかった花は、ヤマオダマキ・エゾノタチツボスミレ・ノアザミ・アマドコロ（ゼロというのも大事な記録です!）

1日を終えておわりの会。参加した子どもたちから「楽しかった!」「次回も参加したい!」という感想が聞かれました。嬉しい言葉です。子どもたちと行う観察会では、いつも新鮮な驚きをもらいます。

次回8月にはもっとたくさんの花々とマルハナバチが迎えてくれるでしょう!「マルハナバチ調べ隊（盛夏編）」もお待ちしていますよ!



●マルハナバチ調べ隊・盛夏編●

8月3日（土）

記事：榎田幹夫

2025年度「マルハナバチ調べ隊-盛夏編」を8/2（土）に参加者17名（子供10名、大人7名）と乙女高原世話人・案内人7名〔鈴木さん/まとも、植原さん、角田さん、井上さん、春日さん、高野さん、榎田〕で実施しました。

これまでと同様、始めの会のあと紙芝居〔マルハナバチの1年〕と写真〔マルハナバチの種類とその特徴〕を使った学習会でマルハナバチについて基本を学び、その後所定のコースを歩いてマルハナバチを数える「ラインセンサス調査」、午後は担当する花の前で15分間に訪れるマルハナバチを数える「待ち伏せ調査」を行い、終わりの会で調査結果を報告しました。

10時10分から始めの会です。今回も鈴木さんが担当です。鈴木さんの司会進行で、代表世話人の角田さんの歓迎の挨拶、スタッフと参加者の自己紹介を行いました。今回は17名と大勢参加して頂きました。プログラムの最初はマルハナバチについての学習です。紙芝居を使った「マルハナバチの一年」では案内人の春日さんのお子さんが上手に解説してくれました。そのあと春日さんが写真を使ってマルハナバチの見分け方について説明しました。

学習の後は草原に入って「ラインセンサス調査」です。所定のコースに参加者全員で歩いて、咲いている花を訪れたマルハナバチの種類と行動を観察して記録します。榎田による調査・記録方法の説明を聞いてから3班（先導/鈴木さんと井上さんと榎田）に分かれて出発しました。草原には色々な花が咲いています。

入り口近くにはオオバギボウシが沢山の花をつけています。早速マルハナバチが飛んできて筒形の花の中にもぐり込んでいきました。見てみると後ずさりしながら出てきます。体の色から種類を、脚に黄色い花粉団子があるかどうかを観察し、ハチの種類、花の名前、花粉団子の有無、行動を記録します。さらに行くと薄紫の花ヒメトラノオやクガイソウの花で蜜を吸うマルハナバチが次々に観察できます。クリーム色・黒・オレンジ色の縞模様があるオオマルハナバチ、頭の近くが赤茶色のトラマルハナバチ、レモン色の毛があるミヤママルハナバチの3種類です。子供たちはすぐに見分けられるようになり、『おーちゃんがいた』『みーちゃんが来た』と次から次と見つけます。



ツツジのコースに入ると旅をする蝶アサギマダラがヒヨドリバナの蜜を吸っていました。草原のコースに戻って丁度1時間で調査終わりです。榎田の記録では9種類の花に71頭のマルハナバチ〔トラ19、オオ29、ミヤマ23〕が観察できました。

12時からランチです。またまた角田さんから美味しいプラム〔貴陽〕と2種類の桃〔暁、浅間〕の差し入れがあり、参加者全員で美味しくいただきました。いつも自家産の美味しい果物、有難うございます。榎田が持参したスイカは小さく切って子供達に食べて貰いました。

12時45分から「待ち伏せ調査」です。参加者各自が好きな花を選んで、15分間観察しその花を訪れるマルハナバチを記録します。調査方法の説明を聞き、12頭まで記録できる記録用紙を各自4枚持って調査開始です。榎田が選んだノハラアザミ、チダケサシはマルハナバチにはあまり人気が無く4頭、2頭でした。参加者各々15分間、2回調査してログ前に戻ってきました。結果を鈴木さんに報告し、花別にマルハナバチの種類と1時間あたりに換算した頭数を集計します。



14時から終りの会を行い、井上さんから調査結果の発表と植原代表世話人から御礼と乙女高原ファンクラブへの入会のお誘い、この後の昆虫調査(8/17)と次回のマルハナバチ調べ隊(9/6)のお知らせがありました。

前回(6/29)の初夏編では咲いている花の種類が少なく、午前中が16頭でしたが、今回は沢山の花が咲いて、午前中の「ラインセンサス調査」では植原さんの記録で93頭〔トラ25、オオ41、ミヤマ27〕でした。午後の「待ち伏せ調査」では観察した10種類の花で、マルハナバチに人気の花は、ヤナギランが一番で1時間あたりで69頭、次がクガイソウ、タチフクロ、オオバギボウシの順でした。今回は期待以上のマルハナバチが観察できました。

終わりの会終了後、道具や備品類を確認しログに収納したタイミングで大粒の雨が降り出しました。

調査中に降られずにラッキーでした。スタッフを含めて参加者の日頃の行いが良いのでしょうか！

●マルハナバチ調べ隊・初秋編●

9月6日(土)

記事：春日飛鳥

案内人2年目の春日です。山の花が大好きで一眼レフを抱えて20代から15年ほど通い続け、ひっそり個人ブログに記す「秘密の庭」のような存在でした。それが、3年前に我が子とファンクラブに加入し、案内人になり・・・といった急激な変化を経て、「人」とのつながりが増え、いまや私の大切な「サードプレイス(第三の居場所)」となっています。

マルハナバチ調べ隊は過去3回の参加経験がありましたが、案内人の視点で見ると新たな発見の連続です。15年前の初めて乙女高原の自然観察会に参加した自分のブログを見返すと、

「彼らは標高の高いところにしか生息しない、ミツバチの仲間。花の蜜だけで生活するけれど、花に養ってもらっているだけじゃありません。働き蜂は自分専門の花を決めて、その花にだけ訪れるそうです。そうすると、花は自分と同じ種類の花粉を媒介してもらえらるって訳。花にとって大事なパートナーなんですね。ファンクラブのボランティアガイドさんたちは、彼らをみ～ちゃん、とらちゃん、などと呼びます。・・・刺された記憶しかないハチが大嫌いな私も、かわいい と思ってしまいました」との記述が(若い・・・笑)。

当時から、ファンクラブのマルハナバチ愛が参加者にはちゃんと伝わっていたんですね。ハチもアブもみんな刺す、と誤解していた私も、乙女高原案内人になり昆虫の生態を正しく知ったいまでは、「マルハナバチが大好き」と言えるまでになりました。

初秋編では、甲州市から1家族、長野県から2家族(盛夏編からのリピートで、お知り合いの家族をお誘いいただいてのご参加)と、松林さんがご参加されました。前回に引き続き参加してくれた小学5年生は、マルハナバチ調査票を用いて自由研究をされたとのこと！！乙女高原を大切に思い守ってくれる次世代が増えると嬉しいですね。

スタッフは角田さん、芳賀さん、三枝さん、井上さん、鈴木さん、加藤さんという、非常に頼もしいバックアップ体制で進行しました。午前中1時間のラインセンサス調査で、初の実験役を担いました。前回の盛夏編ではたくさんのマルハナバチを観察できたおかげで、終盤には見分け方が板についてきたはずだったのですが・・・

「鈴木さ～ん！これトラ？(汗)」「角田さんっ！これはオオですかね？(汗)」と、1か月後には記憶が薄れヘルプを出す始末。先輩方に助けられながらの先導役デビューとなりました。

盛夏編では花粉団子をつけた個体が非常に少なかった印象でしたが、初秋編では45頭中17頭に花粉団子をつけた個体が確認できました。まだまだ幼虫が育っているのかもしれませんが。



＜ラインセンサス調査結果＞※井上さんデータ

- ・ミヤママルハナバチ 27 頭（ヤマハギが大人気、2 番人気はノハラアザミ）
- ・オオマルハナバチ 9 頭（ヤマハギ、ノハラアザミ、タチフウロなどまんべんなく）
- ・トラマルハナバチ 9 頭（ノハラアザミに次いでハバヤマボクチに多いのも特徴）

＜待ち伏せ調査＞※出現種はミヤママルハナバチが最多

- ・1 位・・・ヤマハギ
- ・2 位…マツムシソウとマルバダケブキ
- ・3 位・・・ノハラアザミ
- ・4 位・・・アキノキリンソウとタムラソウ



初秋の乙女高原を観察するのは数年ぶりですが、鹿柵の効果なのか草勢がとても強く、植物の個体数が増えた印象でした。個人的に一番の収穫は、15 年通ってついぞ見ることができなかった「オケラ」に二株も出会えたこと！！一人で嬌声を上げながらシャッターを切っていました（笑）。植原さんの観察ブログでオケラの存在をずっと認知してはいたのですが、実際に見ると真っ白で独特な形状のかわいい花でした（オケラで待ち伏せ調査をすればよかったと事後に気づく・・・涙）。

そして気になったこととして、ハンゴンソウに虫こぶが異様に多かったことです。数年前まではこんなに見ることがなかったように感じます。例年生育していた場所でアケボノソウが見られず、植物にお詳しい井上さん曰く、「秋の花の開花が遅いね」とのことと、それもこれも温暖化の影響なのでしょう。

マルハナバチを知ることですます大好きになった私。来年はマルハナバチ調べ隊全 3 回をコンプリートして、花が増えた乙女高原でたくさんのマルハナバチに会いたい！！是非皆さんも来年お越しくださいね♪お待ちしております♪

どんな昆虫がどの花にやってくるのかな？

●訪花昆虫調査 7 月●

7 月 23 日（水）

記事：植原 彰

雨のため、この日に延期したのですが、それでも 7 人が参加してくださいました。

はじめに高槻先生からこの調査の背景や方法についての説明があり、その後、全員で草原の遊歩道を歩いて、この時期によく咲いている花を確認後、だれがどの花を担当するか決めました。そして、分散して、それぞれ担当の花にどんな昆虫が来て、何をしているのかをじっくり観察しました。

私はシシウド担当でした。パピリオ双眼鏡でじっくり見てみると、ハエやハチが来ますが、小さな花からツンツン出ているおしべ(花粉)には見向きもせず、花の真ん中に向けて口を伸ばしているように見えます。花蜜を吸っているのだと判断しました。証拠写真を撮ろうと思いましたが、カメラをちょっとでも動かすと、すぐに逃げてしまいます。うまい写真が撮れませんでした。

午後からはキンバイソウを観察しました。キンバイソウはもう花盛りの時期は去っていましたが、ハネカクシやハサミムシ、何種類かの甲虫が花の上にはいました。ハネカクシとハサミムシは結局、何をしているのか分かりませんでした。甲虫はおしべの先に口を持って行き、ムシャムシャしている様子が見えました。花粉を食べていると判断しました。これはバッチリ証拠写真が撮れました。

7 人で午前・午後と計 2 時間ほど観察し、「どんな花に、どんな昆虫が来て、何をしていたか」の記録がいっぱい集まりました。今後、それらの調査用紙を高槻先生に送って、エクセルへの打ち込みと分析をしていただきます。どんな結果が出てくるか楽しみです。高槻先生、よろしくをお願いします。



●訪花昆虫調査 8 月●

8 月 18 日（日）

記事：植原 彰

この日、高槻先生はモンゴルで野外調査中。残された者での調査でした。とはいえ、案内人の加藤さんと娘さん、大堀さん、井上さん、三枝さん、芳賀さん、雨宮さん、常連の篠原さんご夫妻と娘さんと娘さんのお子

さん、軽井沢から参加された河辺さんとそのお友達とそのお母さん、そして植原・・・と、とてもにぎやかな調査になりました。

これだけの人数がいて、グループ数を多くして、その分、分担距離を短くできるし、複数人でグループが組めるので、調査内容を分担できます。調査がちょっぴり楽になります。それでも、さすがに炎天下の調査はきつかったです。猛暑日どころか真夏日も体験したことのない乙女高原ですが。

今日は高槻先生がいらっしゃらないので、調査の目的も、経緯も、調査の方法も、残された者で説明しなくてはなりませんでした。勉強になりました。

午前中の調査が終わり、お昼をにぎやかに食べながら調査の進捗状況を共有し、グループごとの午後の調査区間を決めました。8月と言うと、例年、訪花昆虫の数が一番増える時期ですが、14:30 ころには調査を終えることができました。

参加した皆さんに感想を書いていたいただきました。一部紹介します。

◆初めて植物や虫の調査をさせて頂きました。これまで花の名前や虫の名前を覚える機会は少なかったのですが、名前を覚えられたら、とても楽しく歩く事ができました。暑くて長いなと時々思いましたが、終わってみると、達成感もあり、充実した時間になりました。このような機会をありがとうございました。今後は、今日覚えた花や虫を見つけたり、新しく名前を覚えたりしながらお散歩したり、自然に関心を持ちたいと思いました。楽しかったです！

◆今まで草原といえば茅場にばかり行っていたので、こんなに多種多様な色とりどりの花が咲く草原（「お花畑」というほうがしっくりくる）に來られて感動しました。本当に天国にいたようでした。その中でも、林縁に近い部分や斜度のきつい部分など、それぞれで優占する種が場所場所で少しずつ違うようにも見え、おもしろかったです。昆虫は時刻や日照、風などの細かい環境変化によって、たくさん出たり、一斉にいなくなったり、出現状況が刻一刻と変わるように見え、調査を長期に渡り続けたり、行動観察する意義を感じました。楽しかったです。

◆たくさん花や虫に出会えました。山歩きはよくしますが、このようにゆっくり行ったり来たりしながら山を満喫することは初めてで、とても楽しく満足な一日でした。せっかく覚えた花の名前も明日には忘れそうですが、楽しかった気持ちは忘れないと思います。ありがとうございました。（ひとつの目的を持って行動することは、とても満足感の高い時間になるのだなあ）

◆訪花昆虫調査がやっとできるようになりました。まだ花の名・虫の名が、まだまだ時間がかかりそうです。しかし、暑かったです。今夜はビールがおいしくしょう。

◆花の名前がおぼえられた。

◆かぞえるのがたいへんだったけど、花がきれいで、たのしかったです。

◆アサギマダラがたくさん見られて、うれしかったです。ヤマハギが思ったよりたくさんあり、ハチたちもたくさん集まっていて、おどろきました。ありがとうございました。



●訪花昆虫調査 9月●

9月13日（土）

記事：槇田幹夫

2025年度5回目の「訪花昆虫調査」を9/13（土）に高槻先生と乙女高原ファンクラブのメンバー9名で実施しました。今回の調査は、従来の「花と昆虫数」調査から一步進めて「花と昆虫数とその行動」を調査するもので、6月と7月に続いて3回目です。担当する種類の花に來ている昆虫の種類と行動（吸蜜、食花粉、その他）と時刻を、草原の道を移動しながら観察し記録する調査です。

あいにくの天気となってしまう乙女高原は雲の中、グリーンロッジから草原は白いベールに包まれて全く見えません。11時前に高槻先生が到着し調査前の打合せです。参加者は植原さん、井上さん、角田さん、篠原さんご夫妻、加藤さん、松澤さん、松林さん、槇田の9名です。

打合せの前に高槻先生から「玉川上水の野草たち」の冊子を頂きました。花や実の写真と高槻先生が描いた水彩画が掲載してある素敵な冊子です。ありがとうございます。

最初に今回の訪花昆虫調査についての説明がありました。これまでの調査でシカ柵設置後の花と昆虫数の回復は確認できたが、花の形（筒型、皿型）と訪れる昆虫の口吻の形が対応しないケースがあり、吸蜜か花粉を食べているのかの行動を記録する調査を行うということです。

小雨が時々ぱらつく天気でしたが、草原に入って咲いている花を確認しました。夏7月に沢山咲いていたオオバギボウシやヤナギラン、クガイソウには実が沢山ついています。ゴマナが背丈を超えるほど伸びて花盛りです。ノコンギクやユウガギク、シラヤマギクも咲いています。よく似たノハラアザミとタムラソウも咲いています。背たけの低いアキノキリンソウも金色の花を沢山咲かせています。爽やかな水色の花弁を広げたマツ

ムシソウが花盛りです。雄蕊の葯がピンク色で綺麗です。ヤマラッキョウやリンドウは蕾です。オケラやヤマトリカブトが咲き出しました。2mもの高さでハバヤマボクチが咲いています。ツリガネニンジンには実も花も付けています。クチベンタケが生えていました。つまむと天辺の口から白い胞子が煙のように吹き出します。

1時間ほどでロッジに戻って昼食です。小雨が降っているためロッジ内で食べました。今回も色々美味しいデザート頂きました。ハバヤマボクチの葉っぱ（裏の細毛）を使ったウラジオ饅頭、黄桃のシロップ漬け、富山の水饅頭などなど、ご馳走様でした。休憩時間を利用して、マツムシソウの花の造り〔五角形の小さな花の集合体〕やハバヤマボクチ〔葉場山火口〕の名前の由来を学びました（注：葉場山とは「草刈りしていた山」という意味だそうです。まさに乙女高原の植物！ 植原）。

午後も小雨がぱらつく中で1時間ほど調査・記録しました。花盛りの6種類の花を選定し担当を決めました。ゴマナ（高槻先生・松林さん）、オケラ（植原さん）、アキノキリンソウ（井上さん）、タムラソウ（加藤さん）、マツムシソウ（篠原さん夫妻）、ノハラアザミ（植田）で、草原のコースを各自歩いて調査しました。雨模様の天気なので昆虫は殆ど飛んでません。ノハラアザミでは甲虫が花の中に潜り込んでいます。吸蜜しているのか雨宿りでじっとしているのか区別が付きません。時々アブやハエが飛んできました。マルハナバチは殆ど見かけません。調査の最後、ロッジ前に咲くノハラアザミにミヤママルハナバチがやってきて吸蜜しているのを見つけ、やっと会えた！となんだか嬉しくなりました。

15時前に調査終了しました。小雨がぱらつく天気のもとでの調査でチョウやトンボは全く姿をみせず、マルハナバチも僅かでしたが、これも貴重な調査データでしょう。次回10月は巻き尺を使って場所を特定しながら花と昆虫の種類と数を調べる調査です。



樹名板を設置しました

8月24日（日） 記事：赤松樹也

「グリーンロッジの倉庫で発見された200枚を超える樹名板を、折角なので有効活用しよう」という作業に参加しました。遊歩道のどの場所のどの樹木に設置するかなどの選定作業や、樹名板に杭を取り付ける作業などは、事前に松澤さん、井上さん、植原さん、雨宮さんで実施して貰っていました。なので、実際の作業は、地図と、地図に記入された樹木の名前を頼りに、現地の目印のリボンに書かれた樹木の名前と同じ樹名板をゴムの大槌で打ち込むという作業内容です。ちょっぴりオリエンテーリングの要素もあって、子供達でも楽しめそうです。

9:30に集合。植原さんが時間をたっぷり使ってしっかりと説明していきます。高原も暑かったので、日陰でベンチに座りながら説明を聞き、班分けをします。A～C班と、専門的な特別班の4班体制で、我々はC班になりました。大堀さん、赤松、臼田さん、あかねさんの4名です。

10:00、割としっかりした杭が付けられた樹名板を担いで、高原に入っていきます。八月の高原は夏の花が旺盛を誇っていて、今日はオミナエシの黄色が鮮やかで、可愛いツリガネニンジンやマツムシソウ、タチフウロが目立っていました。ヤマハギも多かったです。

草原から湿地の方へ向かうルートで、陽当りの良いそうげんから林の中に入ると少し暑さが和らぐ気がします。林に入るとすぐにリボンは見つかり、地図とリボンに書かれた木の名前を確認して樹名板を打ち込みます。

C班は樹名板6本受け持ちで、最初の一回目こそは、深さとか、向きとかを話し合っ慎重に設置しましたが、その後は慣れると言う程ではないけれど、問題なく進められました。湿地エリアの近くなので、ロッジからは離れていたけれど、割と平坦だし、申し訳ないくらいに設置する木の場所が近くに固まっていたので、10:20には設置完了しました。

ロッジ前に戻って待機します。用意した樹名板で振り分けていない物が、まだ10本以上ありましたが、どこのどの木に設置するのか分からず、勝手にする訳にもいきません。他の班の手伝いをすると思ったが、もう終わるので大丈夫だと断られてしまったので、全員が戻るのを待ちます。



小一時間待機になりましたが、残りの樹名板を振り分けてまた設置に行きます。今度は地図に載っていないので、少し探したけれど無事に設置を完了しました。11:55分に集合し、記念写真を撮って終わりました。

もう少し全体を把握している人がいると良かったかもしれませんが、楽しい作業でした。まだまだ樹名板はある様なので、次回は、更に楽しいイベントになるのではないのでしょうか。

※

※

※

お昼を食べてから、今日、樹名板を設置した辺りの先、湿地帯の奥に続く道を歩いてみました。湿地帯の先から塩平へと続く**乙女高原自然観察路**という登山道です。

湿地帯から地面に湿気が増えて少し大きめの石が出て来ますが、そこまでの歩きにくさは無く、横には車道のガードレールも見えているけれど、陽射しは少ないです。

一部コンクリートの作業路に当たるゲートで分岐になっていて道標があります。車道を挟んで大窪山側にも行けそうでしたが、道標の塩平方面へ下ります。樹林帯の中を歩き易い広めの登山道が続きますが、荒れているという程では無いにせよ、人が踏んだ跡は少ないようです。

ブナ林の中を更に下って、苔むして緑が目立ってくると水が流れ出しています。源流はもう少し上でしょうが、鼓川の支流になるのでしょうか。この辺りにもクリンソウが群生しているそうです。一つ隣の谷筋にはフシマノターノ沢という沢が地図に載っていました。岩が大きくなって緑色の苔を纏い、まるでグリーンガーデンのようになると、ちょろちょろだった水の流れも川らしい瀬音に変わって来ます。休憩のベンチがあったけれど、苔に覆われた緑のベンチになっていました。

登山道の道標や印は少ないけれど、注意していれば迷う程でも無く、沢の流れに変わって来たところに車道に出ます。塩平のゲートまでは少し車道を歩くようだけれど、グリーンロッジから車道まで、だいたい1時間でした。

苔むした緑の中を歩く、とても気持ちのいい登山道でした。せっかく「乙女高原自然観察路」と名前が付いているので、もう少し整備されると、乙女高原まで歩く人も増えるのではないのでしょうか。

【補 足】赤松さんレポートの後半に出てくる**乙女高原自然観察路**という登山道ですが、塩平から林道を2kmほど走った左側に入口があります。そこから乙女高原まで、約2.5kmの登山道です。まだ乙女高原グリーンロッジが稼働していたころ、牧丘地区(当時は牧丘町)の全小学校3校と笛川中学校が毎年2泊3日の自然教室を実施していました。子どもたちは塩平までスクールバスで行き、そこから焼山林道→乙女高原自然観察路を歩いて乙女高原に向かいました。途中で小さな沢を渡るのですが、そこでハコネサンショウウオを探すのが楽しみでした。1.5時間ほど汗びっしょりで歩いて、草花いっぱいの草原を目の当たりにした時の感動は今も忘れられません。車で行っちゃうと、そんな感動は味わえません。赤松さんのレポートを読んで、そんなことを思い出しました。(植原 彰)

夏の案内活動

7月19日(土)

記事：角田敏幸

午前中は遊歩道の草刈りをして、午後の空いた時間に夏の案内人をしました。午後の3時までに4組の案内活動をしました。

1組目は東京の町田市から来た山仲間8人組で乙女高原は2回目だそうです。案内内容は、「乙女高原山頂はどう行ったら良いか」と言われ、乙女高原の森のコースを案内して、富士見百景で富士山が観られたら見て、ヨモギ頭を通りブナじいさんに行き、その先に見える林道を右に戻り、間伐の支線ゲートが2つ有るので右側のゲートを乗り越え道なりに行き平らになったら、稜線を右に藪こぎ(冬は草が伸びてないので行きやすい)後はGPSで乙女高原山頂を目指して行って下さいと案内する。

2組目は6人で東京から来た山仲間乙女高原はやはり2回目。「8月に行く予定の大鳥山の行き方を教えて下さい」と言われ、「来る方向により現在林道が通行止めになっているので、確認後行かれた方が良い」まで伝え、登山口駐車場(路駐)から約2時間位上れますが展望が無いことまで伝えました。

3組目は単独で来た方で昨年も来られた北杜市の方で、今咲いているお花を教えてくださいとの事で、パンフレット「乙女高原のお花たち」を差し上げ、今咲いているお花を教えてくださいました。

4組目は横浜から初めて乙女高原に来られたご夫妻で、北杜市から来た方と同じ内容を説明し、また、再訪して下さいと言っていました。

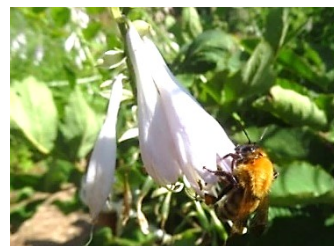
以上が初日の案内内容です。



夏の案内人活動日

- ① 7月19日(土)
- ② 7月20日(日)
- ③ 7月25日(土)
- ④ 7月26日(日)
- ⑤ 8月2日(土)
- ⑥ 8月3日(日)

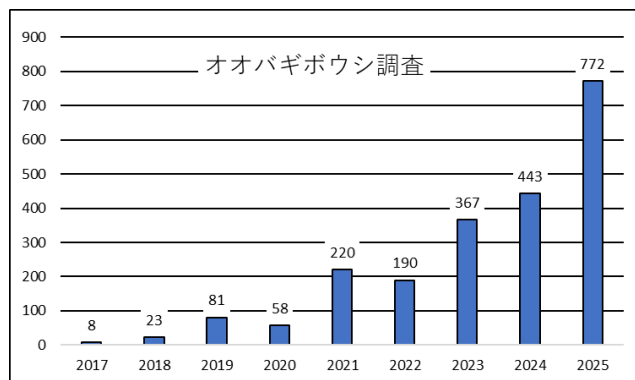
7月中旬から8月中旬にかけて、乙女高原ロッジ前の鹿柵ゲートをくぐって草原に入ると、遊歩道の左右に薄紫色のラッパ型の花をいくつもつけたオオバギボウシの花が咲き乱れています。この花にはトラマルハナバチが次から次へと訪れて、花の中にもぐり込み、蜜を吸い、花粉をつけて花の受粉をしてくれています。ゲートを入ったところだけでなく、草原のコースを登っていく斜面の手前、大きなモミの木の下にも100本以上のオオバギボウシが咲いています。森のコースや他の場所でもあちこちで咲いています。またこれまでは遊歩道の周囲に咲いていたのが、今年は遊歩道から離れた草原の中にもたくさん咲いているところもありました。今年はこのオオバギボウシが特に多くなったなという印象があります。



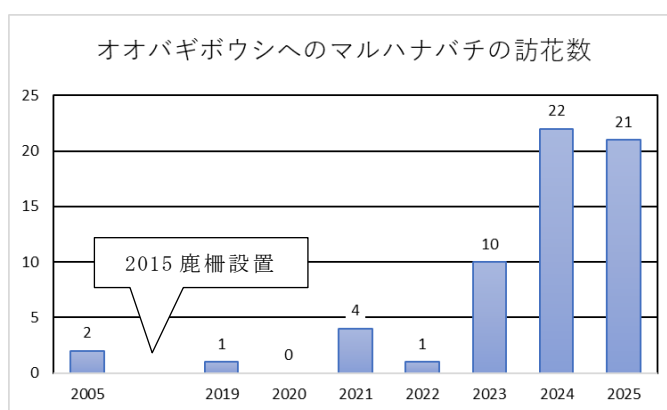
私は2017年からオオバギボウシの数を数えています。今年も数えてみました。その結果（柵内の総本数）は次のグラフの通りです。

これを見るとこの9年間でオオバギボウシが増え、特に今年は昨年より倍増しています。印象として増えていると感じたのが、はっきりと数字に表れました。

オオバギボウシは野草として食べることができ、鹿の大好物でもあります。鹿柵が設置されたのは2015年。それから10年がたって、鹿の食害をうけなくなったオオバギボウシが増えてきたことは嬉しいかぎりです。鹿柵ができる前から数えておけばよかったのですが、ほとんどなかったように思います。私は咲いていた花を記録していますが、2005～2015年までの10年間でオオバギボウシの花があったのは2005年、2009年、2012年、2015年の4回だけでした。2016年7月にどこにどんな花が咲いているかを調べた時は、鹿柵内の遊歩道をすべて歩いて、湿地へのゲート付近だけにオオバギボウシがありました。本数は数えてないですが、数本だと思います。私が乙女高原に関わるようになった2005年にはもうオオバギボウシは少なくなっていたということでしょう。2004年以前は乙女高原に行ったことがないので、その前の様子はわかりません。



乙女高原にオオバギボウシがたくさん咲いていたのはいつ頃で、いつ頃から減ってしまったのだろうか。気になって過去のメールマガジンで、2003年から行っているマルハナバチ調べ隊の記録を見ました。マルハナバチ調べ隊では決められたコースを歩いて、どんな花にどんなマルハナバチが来ていたかを記録します。ですからその記録を見れば、どんな花があったかがわかります。そこにオオバギボウシの記録がないかなと思って、マルハナバチ調べ隊8月の記事を見ました。もちろん花が咲いていてもマルハナバチが訪れていなければカウントされませんが、おおよそのめどはつくのではと考えました。その記録によると2005年と2019年以降しかありませんでした。それで植原さんに確認してみました。植原さんはマルハナバチ調べ隊のデータをまとめているそうです。2003～2025年の23年間のデータによると、マルハナバチ調べ隊でオオバギボウシが記録されているのは以下でした。



2003～2020年までの18年間では2005年、2019年の2例のみでした。2021年以降は毎年記録があり、その数は増加傾向です。

さらに乙女高原メールマガジンでさかのぼってみました。
2006/12/28「・・・ここ3年。おそらくシカがアマドコロやオオバギボウシを食べた跡をよく見かけるようになりました。そう思っていたら、今年は目に見えてアマドコロとオオバギボウシの花が少なくなっていました。」

2011/8/2「…花暦調査をしました。草花の開花状況をチェックしたのです。40種類の草花が花を咲かせていました。…残念だったのは、10年前はごく普通に見られたオオバギボウシやヤナギランの花が一つずつしか見つからなかったことです。これもシカの食害なのでしょうか。」

2014/8/9「…花の種類数は例年とあまり変わりませんが、数が極端に違います。あれだけ群れ咲いていたアヤメやクガイソウはポツンポツンとしか咲いていません。ヤナギランにいたっては草原の全遊歩道を歩いても1本も見かけることができず、オミナエシとオオバギボウシは3本ずつしか咲いていませんでした（2014年8月2日調査）。」

2017/08/07「…シカ柵2シーズン目を迎え、乙女のお花たちは確実に回復しています。ヤナギランやマツムシソウ、ツリガネニンジン、オオバギボウシも咲き始めましたよ。ヤナギランやオオバギボウシが複数咲いているのを見るのは何年かぶりだと思います。」

またブログ「乙女高原フィールドノート」の記事からオオバギボウシに関するものを探しました。

- ・2011年 草原内を一回りしてたった1本
- ・2013年 ススキに守られて咲く1本の写真
- ・2014年 1本の写真。「10年前は普通にあったのに今は絶滅危惧種だ」とのコメント
- ・2017年 遊歩道を一回りして3本
- ・2019年 オオバギボウシの近くにトラマルハナバチが映り込んだ写真と「鹿柵設置4シーズン目にして、リンク（花の昆虫のつながり）が戻ってきた」とのコメント
- ・2021年 オオバギボウシとトラマルハナバチの写真と「オオバギボウシが復活して、トラマルハナバチがおかえりと言っているようだ」とのコメント

これらの記事によるとやはり鹿柵が設置される10年くらい前にはオオバギボウシは減ってしまっていたと考えられます。その後も鹿の食害を免れたものが細々と生き残っていた様子です。2011年にはなんと1本だけ、2014年には3本と本当に少なくなっていました。

そして2015年に鹿柵が設置されますが、2017年には3本（井上の調査では8本）とまだ少ないです。その後、2019年から少しずつ増えていったことが井上の調査結果からもわかります。

ではたくさん咲いていたのはいつ頃だったのでしょうか。

2001年、2003年にオオバギボウシとトラマルハナバチの関係を調べたという記事がありました。この頃はオオバギボウシがたくさんあったのでしょうか。これも植原さんから当時の様子を教えてくださいました。

「2000年代初頭にオオバギボウシとマルハナバチの関係を調査したのは、そのころ、乙女高原ではオオバギボウシが多かったからです。この調査をしていた東京大学大学院（当時）の國武さんは、もともと奥多摩の一之瀬高橋で調査をしていたのですが、ここではシカによってオオバギボウシが減ってしまい、研究の継続が難しくなり、調査地を求めて乙女高原にやってきました。」

同じ場所で2002年または2003年に撮った写真と2014年に撮った写真を比べると、前者の方がずっと花が多いことが目に見えて分かります。その同じ場所で今年2025年も写真を撮ってみました。すると、2014年（シカ柵設置直前）よりもずっと花は回復していますが、2002、3年ほどではないことがわかりました」



2002年の草原

このように過去の記録を見ていくと、2000年代初頭まではオオバギボウシがたくさんあったことがわかりました。2002、3年の写真をみせてもらおうとオオバギボウシがたくさん咲いています。

そして2004年頃から鹿の食害が目につき始め、2006年には目に見えて減ってしまったようです。やはり鹿柵ができる10年くらい前には少なくなり、その後は目立たないところで、わずかに残っていたものと考えられます。鹿柵ができた2015年以降も急には復活しませんでした。しかし鹿柵設置4シーズン目の2019年頃から徐々に増え始め、今年2025年は目立って増えたと考えられます。

鹿柵ができるほぼ10年前にほとんどなくなってしまったオオバギボウシが、鹿柵ができてほぼ10年で復活したということです。20年の時を要したということには感慨深いものがあります。来年以降、どのように変化していくのか、続けて調査していきたいと思います。

TOPICS



◆町の駅やまなし常設展示

JR 中央線・山梨市駅北口にある街の駅やまなしのスペースをお借りして、乙女高原展を開催しています。掲示板 1 枚と長机 1 脚だけのミニミニ展ですが、毎回テーマを決めて 1~2 か月程度で展示替えしてきました。シーズン 50 はテーマが「乙女高原草刈りボランティア」です。今までの二十数年分の草刈りボランティアちらしを展示しています。山梨市駅近くにおいでの際は、覗いてみてください。今年のちらしも置いてありますので、ぜひお持ち帰りください。

◆ヒメギフチョウが山梨市の天然記念物に指定

2025 年 5 月、乙女高原に春の訪れを告げるチョウ・ヒメギフチョウが山梨市の天然記念物に指定されました。「春の女神」「生きている化石」とも言われているアゲハチョウ科のチョウです。2019 年 8 月に指定された甲武信エコパークのシンボルマークの真ん中にドーンと居るのがヒメギフチョウです。もともと数が少ない上に、業者やマニアによる採取等により、さらに少なくなり、2018 山梨県レッドデータブックでは準絶滅危惧種、環境省レッドリスト 2020 でも準絶滅危惧種に指定されています。市の天然記念物に指定されたことで、原則として採取禁止となります。



◆今後の活動予定

申し込みフォーム

●第 24 回草刈りボランティア

日時：11 月 23 日(日) 勤労感謝の日 9:00~12:00

集合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：水分、帽子、昼食、おわん、箸(豚汁用)

【重要】刈り払い機ご持参の参加者が少なくなっています。

お持ちの方はぜひご持参ください。



●訪花昆虫調査

～花と昆虫のリンク(つながりの数)を記録～

日時：10 月 4 日(土) 11:00~15:00(予定)・・・雨の場合、10 月 8 日(水)に延期

集合：乙女高原グリーンロッジ

持ち物：弁当・水筒・雨具(防寒着)

●自然観察交流会

日時：10 月 4 日(土) は訪花昆虫調査に変更
詳細上記。11:00 乙女高原集合

11 月 15 日(土) 草刈りボランティア準備
9:00 乙女高原集合

12 月 6 日(土) 9:00 道の駅牧丘花かげの郷

2026 年

1 月 10 日(土) 2 月 7 日(土) 3 月 7 日(土)

集合：9:00 道の駅牧丘花かげの郷

持ち物：弁当・水筒・雨具(防寒具)



12 月の観察会で見られる予定の氷華

●第 23 回乙女高原フォーラム

日時：“仮” 2026 年 1 月 25 日(日) 午後 1 時~3 時 30 分

会場：“仮” 夢わーく山梨 大集会室(山梨市上神内川)

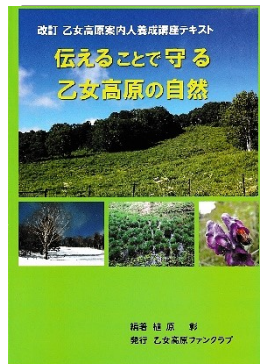
テーマ：“仮” 乙女高原のチョウ

フォーラムについての詳細は、草刈りボランティア終了後、乙女高原連絡会議※にて本格検討します。最新情報はホームページにてご確認ください。

※乙女高原連絡会議：乙女高原の保全や活動について話し合う山梨市・山梨県・乙女高原ファンクラブ担当者の円卓会議

●夏のさまざまな活動の記事で盛りだくさんの今号は、編集を井上敬子、校正を鈴木辰三さん・植原彰さん・廣瀬晴美さんが行いました。その後、芳賀月子さん・三枝かめよさんの印刷、山本和美さんの発送作業を経て、約340通がみなさまのもとに届けられる予定です。

乙女高原ファンクラブの刊行物



乙女高原案内人養成講座のテキスト

『伝えることで守る 乙女高原の自然』

(A4判 270頁 2024年)モノクロ。2006年テキストの増補改訂版。頒価 1,500円。送料は1~2冊430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原を歩く際のお供に『乙女高原の自然観察』

(A5判 30頁 2023年)オールカラー。1ページに1テーマ。頒価 300円。送料は1冊:180円、2~8冊:270円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁 2013年)乙女高原メールマガジン11年間の中身を編集した厚さ3cmの本。一部カラー。頒価 2,000円。送料は1・2冊なら430円。送金は郵便振込・ゆうちょ銀行で。

乙女高原フィールドガイド シリーズ ……欲しい方は事務局までご連絡ください



フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに

『乙女高原のスマイル・ウォッチング』

→在庫切れ

フィールドガイドⅡ マルハナバチ観察と調査のおともに

『マルハナバチ ウォッチング 改訂新版』

フィールドガイドⅠ 春から夏にかけて咲く草花のガイド

『乙女高原のお花たち 第三版』

いずれもA3判。両面カラー。折りたたみ済み。ポケットに入れられるサイズになっています。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という言葉があります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには… 「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。

- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL 090-7246-8625 FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <https://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込●番号：00220-8-71093 加入者名：乙女高原ファンクラブ

●ゆうちょ銀行●店名：029店「当座預金」番号：0071093 加入者名：乙女高原ファンクラブ

今号は普通会员のみにお送りしています。



ホームページ



フィールドノート
旧観察ブログ



アーカイブ
旧活動ブログ



乙女高原後援会
フェイスブックグループ



Instagram